

経済・金融 フラッシュ

中国経済：7-9月期GDP（予想） ～株価下落を受けて6.7%程度か

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

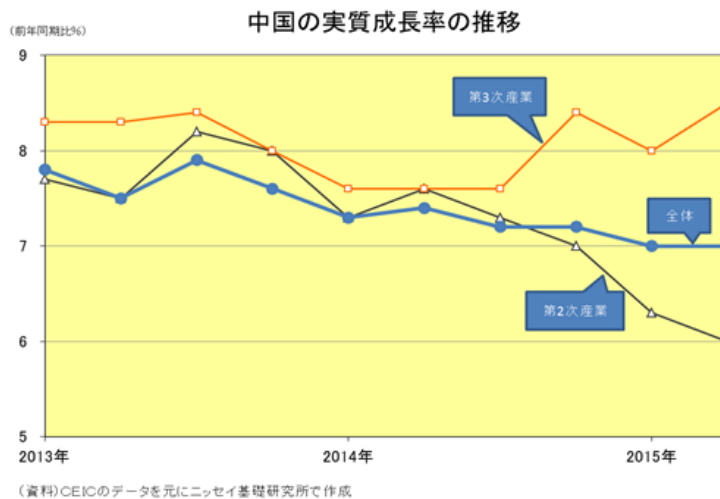
TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

中国では10月19日（月）に第3四半期（7-9月期）の実質GDP成長率が公表される。第2四半期は前年同期比7.0%増と前四半期から横ばいに留まったが、第3四半期はそれより0.3ポイント低下して同6.7%増と見ている。第2次産業は横ばい程度に留まると見ているものの、株価下落で金融業の業績が悪化することから第3次産業は大幅な低下になる予想している。

中国では10月19日（月）に国家统计局が第3四半期（7-9月期）の国内総生産（GDP）を発表する予定となっている。

前回発表された第2四半期（4-6月期）の実質成長率は、前年同期比7.0%増と第1四半期から横ばいに留まった。第2次産業は前年同期比6.0%増と第1四半期の同6.3%増よりも0.3ポイント低下したものの、第3次産業が同8.5%増と第1四半期の同8.0%増よりも0.5ポイント上昇したことから、両者が相殺する形となって全体では横ばいに留まった（図表-1）。

（図表-1）



今回発表される第3四半期（7-9月期）の実質成長率は、第2四半期より0.3ポイント低下して前年同期比6.7%増と予想している。国内総生産（GDP）に占める割合が小さい第1次産業は目立った変動要因も無いことから上期並みの前年同期比3.5%増と見込んでいる。全体の4割強を占める第2次産業は、既に公表された7-8月期の工業生産（実質付加価値ベース、一定規模以上）の伸びが鈍化していることから工業は0.1ポイントの低下を見込むものの、建築業は8月の非製造業商務活動指数（建築業）

が 57.8%と高水準を維持したことなどから前年同期比 6.6%増と小反発を見込み、第 2 次産業全体では同 6.0%増と横ばいを予想している。全体の 5 割弱を占める第 3 次産業は、株価（上海総合）が 6 月末よりも 3 割くらい下落しそうなことから金融業の成長率は大きく鈍化すると見ている。但し、昨年 9 月末と比べると 25%前後高い水準にあり、第 3 四半期の取引金額も前年同期比 3.7 倍に増える見込みである。従って、金融業の成長率は第 2 四半期に比べると 7 ポイントの大幅な鈍化となるものの、前年同期比では 12.2%増と高水準を維持すると思われる。一方、株価とは逆に住宅価格は上昇に転じていることから、不動産業の成長率は高まると見ており、第 2 四半期に比べると 2.5 ポイント改善して、前年同期比 7.0%増と予想している。また、卸小売業と宿泊飲食業は、7-8 月期に小売売上高が改善したことを受けて伸びを高めると見られる。以上を踏まえた第 3 次産業全体では、第 2 四半期よりも 0.5 ポイント低下して前年同期比 8.0%増と予想している（図表-2）。

(図表-2)

実質成長率の推移と予想

(単位: %)

	2014年				2015年		予想 (7-9月期)	前期との 差異
	(1-3月期)	(4-6月期)	(7-9月期)	(10-12月期)	(1-3月期)	(4-6月期)		
国内総生産	7.3	7.4	7.2	7.2	7.0	7.0	6.7	▲ 0.3
第1次産業	3.3	4.0	4.6	3.9	3.2	3.7	3.5	▲ 0.3
第2次産業	7.3	7.6	7.3	7.0	6.3	6.0	6.0	0.0
工業	7.0	7.2	7.0	6.6	6.1	6.0	5.9	▲ 0.1
建築業	9.4	9.5	9.0	8.7	8.8	5.9	6.6	0.6
第3次産業	7.6	7.6	7.6	8.4	8.0	8.5	8.0	▲ 0.5
交通運輸倉庫郵便業	6.5	7.3	6.7	7.5	5.4	4.1	5.0	0.9
卸小売業	10.0	9.7	9.3	9.0	6.1	5.9	6.3	0.4
宿泊飲食業	6.0	6.5	6.2	6.3	5.7	5.8	7.4	1.6
金融業	8.3	7.5	8.8	14.2	15.7	19.2	12.2	▲ 7.0
不動産業	3.1	2.6	1.7	1.9	1.3	4.5	7.0	2.5
その他	8.1	8.6	8.8	8.9	8.8	8.7	8.7	0.0

(資料)CEIC(中国国家统计局)、予想はニッセイ基礎研究所

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。